

授 業 目 名	器質性構音障害学(口唇口蓋裂)	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	2 年(前期)
担 当 教 員 名	福田 登美子	単 位 数	1 単 位
		時 間 数	30 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕 構音器官の先天性、後天性の形態異常が原因となって発生する構音障害は器質性構音障害と分類される。本科目では、器質性構音障害発生の機序、構音障害の言語病理学的特徴・検査・評価・診断・治療・訓練法等について講義する。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 器質性構音障害の理解に必要な基礎知識を学習する。</li> <li>・ 代表的な口蓋裂構音障害(先天性鼻咽腔閉鎖不全、粘膜下口蓋裂を含む)の特徴および検査・治療・訓練目標・訓練方法等を学習する。</li> <li>・ その他の先天性、後天性の原因による器質性構音障害として、舌の先天性形態異常と後天性の口腔腫瘍術後の構音障害の特徴および治療・訓練目標・訓練方法等を学習する。</li> </ul>		
授 業 回 数	授 業 の 内 容		
第 1 回	I. 言語聴覚障害学とは、言語臨床とは、言語臨床家の資質・役割とは何かを考える		
第 2 回	II. 構音障害を理解するための基礎知識(1)用語・定義・分類他 (2)発達側面から考える		
第 3 回	III. 構音障害を理解するための基礎知識(3)音声学的側面から考える		
第 4 回	IV. 構音障害を理解するための基礎知識(4-1)生理学的側面から考える		
第 5 回	V. 構音障害を理解するための基礎知識(4-2)生理学的側面から考える		
第 6 回	VI-1. 顔面・口腔の発生機序 VI-2. 口唇口蓋裂の発生(機序・要因・裂型・合併障害他)		
第 7 回	VII. 口唇口蓋裂の医学的治療		
第 8 回	VIII. 鼻咽腔閉鎖機能(1) (本態・検査)		
第 9 回	IX. 鼻咽腔閉鎖機能(2)(不全) (評価・診断・治療・訓練)		
第 10 回	X. 口蓋裂言語障害の臨床(1) (言語発達の管理・言語臨床の流れ)		
第 11 回	XI. 口蓋裂言語障害の臨床(2) (音声言語学的特徴・検査・評価・診断)		
第 12 回	XII. 口蓋裂言語障害の臨床(3) (構音訓練法)		
第 13 回	XIII. 口蓋裂言語障害の臨床(4) (症例供覧・テープによる音声聴取演習)		
第 14 回	XIV. 口蓋裂以外の器質性構音障害(1) (先天性舌の形態異常の症例)		
第 15 回	XV. 口蓋裂以外の器質性構音障害(2) (舌がん・咽頭がん他) 総括		
評 価 方 法	小テスト 10%、定期試験 90%で総合評価する		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 コミュニケーション障害の臨床 6 口蓋裂・構音障害 日本聴能言語士協会講習会実行委員会編集 協同医書出版社 2009		
履 修 上 の 留 意 点	教科書および配布資料を熟読すること。		
メ ッ セ ー ジ	講義時に動画や音声テープを多く使用する。疑問点は授業中に質問して解決する。		